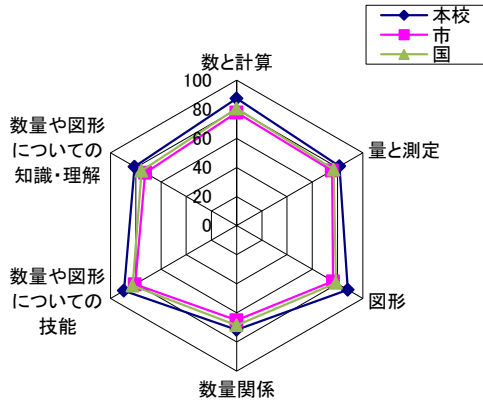


宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

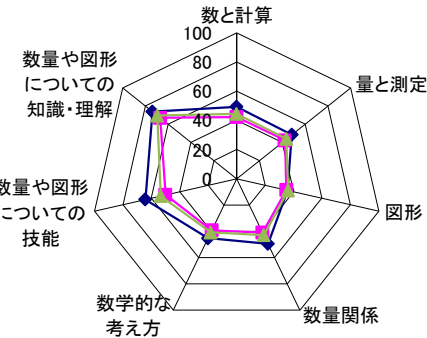
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	87.4	77.7	80.5
	量と測定	81.6	75.6	77.0
	図形	88.2	76.5	78.8
	数量関係	71.6	65.0	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	89.4	80.6	82.5
	数量や図形についての知識・理解	81.0	72.5	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.3	42.3	44.4
	量と測定	48.4	42.3	43.7
	図形	35.8	35.0	36.3
	数量関係	49.5	41.1	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	45.3	39.3	40.9
	数量や図形についての技能	64.2	50.0	53.3
	数量や図形についての知識・理解	73.9	67.0	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○OA、Bともに全国平均を上回っている。特に乗法や除法などの基礎的な計算問題や、課題を読み取り式を立て正しく計算する問題において、正答率が高かった。 ●Bにおける活用問題において、与えられた式の意味を理解し説明することに課題が残る。	・課題を解くための式を示し、「なぜその式で解けるのか」という視点を普段の授業に取り入れる。 ・少人数グループでの話し合い活動などを場に応じて取り入れ、解き方を説明する機会を増やす。 ・児童同士の学び合いを取り入れることで、自信のない児童にも自信をつけさせ、説明することに抵抗を減らす。
量と測定	○OA、Bともに全国平均を上回っている。特に、単位量当たりの大きさを求める問題に関しては全国平均を約10%ほど上回る結果になった。 ●三角形の底辺と高さの関係については全国平均を約2%下回った。底辺と高さの関係を図上ではなんとなく理解しているものの、具体的に言葉で説明できないために、正しい位置関係を理解していないと考えられる。	・単位量当たりの大きさを求める問題に関しては引き続き練習問題を重ね確実な知識の定着を図る。 ・考えを説明したり記述したりする活動を授業で取り入れる。その際、数直線や図を用いての説明を取り入れることで、理解を深めることにつなげる。
図形	○OAについては全国平均を約10%ほど上回る結果となった。特に、図形の構成要素などの基礎は定着している。 ●Bについては全国平均を0.5%下回る結果となった。平面図形や立体図形についての基礎知識はあるものの、角度の大きさを基に、与えられた式の意味を説明するなどの、基礎知識を用いた活用問題に課題が見られる。	・図形を多面的に見る力の育成を図る。ただ単に図形の内角の和や辺の長さを問うだけではなく、それらを基にして複合図形の見方を養い、考え方を言葉で説明する機会を充実させる。
数量関係	○OA、Bともに全国平均を上回っている。示された場面を読み取り、正しく立式することができている。 ●割合に関する問題は、全国平均を約3%下回った。特に1を超える場合において、基準量と比較量の関係の理解に個人差が見られた。	・割合の考え方の理解や表記の仕方の徹底を図る。特に百分率や歩合の考え方の理解や、比較量が基準量を上回る場合について、問題練習を増やす等、継続した指導を行う。